

心疾患と脳卒中の医療費が高い地域の特徴（協会けんぽ福島支部データから）－2 報－

演者：熊谷智広¹⁾、各務竹康¹⁾、日高友郎¹⁾、辻雅善¹⁾、早川岳人¹⁾、蛭田悠平²⁾

畑淳子²⁾、福島哲仁¹⁾

所属：1)福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座

2)全国健康保険協会福島支部

【目的】我々と協会けんぽ福島支部では、年間レセプトデータに基づく福島県二次医療圏別疾病別一人当たり医療費を分析した。その結果、7つの二次医療圏の中で、南会津地域における心疾患と脳卒中の一人当たり医療費がともに最も高いことが判明した。本研究では、特定健康診査（特定健診）のデータを解析することで、南会津地域でこれらの疾患に関する医療費が他地域よりも高くなった要因を検討する。

【方法】一人当たり医療費は、平成24年度協会けんぽ福島支部全加入者（615,834人）の年間レセプトデータから性、年齢階級ごとに診療種別（全医療費、入院、入院外、歯科、調剤）、主傷病名による疾病別（悪性新生物、心疾患、脳血管障害、腎不全、高血圧、糖尿病、気分障害・ストレス障害、認知症）に算出した。支部全体を標準人口として年齢調整を行った二次医療圏ごと一人当たりの医療費は、支部全体の一人当たり医療費に対する比で表した。要因の解析には、平成22年度の協会けんぽ福島支部被保険者と他支部被保険者で県内健診機関受診者の特定健診データ（受診者132,430人）を用い、心疾患と脳卒中のリスクと考えられる、高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群、喫煙、飲酒について、受診者総数で標準化した医療圏ごとのリスク保有割合を支部全体のリスク保有割合と比較検討した。

【結果】南会津地域の健診受診者における脂質異常症およびメタボリック症候群の有所見者と毎日飲酒する者の割合は、医療圏別で最も高かった（1.19倍、1.12倍、1.12倍）。高血圧の有所見率は県内で2番目に高く（1.12倍）、糖尿病、喫煙、1回の飲酒が1合未満の者の割合は最も低かった（0.88倍、0.89倍、0.87倍）。健診受診率は他の医療圏と変わらなかった。

【考察】南会津地域の対象者は、他地域と比べ、高血圧、脂質異常症、メタボリック症候群、毎日1合以上の飲酒をする者が多く、これらの要因が心疾患および脳卒中の発症を増加させ、その医療費上昇に関与すると思われる。また、本研究に関連した、一人当たり二次医療圏別疾病別医療費をみると、南会津地域では高血圧症の医療費が支部全体と比べ0.93倍と少なくなっており、心疾患および脳卒中発症予防のための基礎疾患治療の不十分さが存在する可能性も推測された。これらの結果は、より地域に適合し効率的な特定保健指導等を行う上で重要な示唆を与えるものと考えられる。